

【プログラム】

13:30 趣旨説明 橋爪節也 大阪大学総合芸術博物館館長、同大学院文学研究科教授兼任

13:40-15:00 第1部 「戦後大阪の美術とグタイピナコテカ」

高橋 亨 美術評論家、大阪芸術大学名誉教授

向井修二 イメージプロデューサー、元具体美術協会会員

加藤瑞穂 大阪大学総合芸術博物館招へい准教授

15:15-17:00 第2部 「大阪のアヴァンギャルド芸術とは何だったか」

—美術・デザイン・舞台・音楽—

熊田 司 和歌山県立近代美術館館長

竹内幸絵 大阪市立大学非常勤講師 / サントリーホールディングス

永田 靖 大阪大学大学院文学研究科長

上野正章 大阪大学大学院文学研究科招へい研究員

司会 = 橋爪節也

グタイピナコテカ(中之島・大阪)と具体美術協会会員たち 1962年
©The former members of the Gutai Art Association

Avant-garde
Art in
Osaka

とんがって
オオサカが
いた時代



大阪の アヴァンギャルド芸術

— 焼け跡から万博前夜まで —

2012年11月25日 [日] 13:30-17:00

大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール

定員 = 150名 聴講無料、事前申込み不要、当日先着順(開場は13:00より)

主催 = 大阪大学総合芸術博物館

協力 = 大阪大学大学院文学研究科、大阪大学21世紀懐徳堂

向井修二による記号によって埋め尽されたジャズ喫茶「チェック」(梅田・大阪)1966年
© Shuji Mukai



大阪の アヴァンギャルド芸術

大阪大学総合学術博物館創立10周年記念シンポジウム

— 焼け跡から万博前夜まで —



吉原通雄(ロック・アラウンド・ザ・クロック)1962年
© Naomichi Yoshihara and the former members of the Gutai Art Association

パネリスト略歴

戦後焼け野原から再出発した大阪は、わずか20数年後には近未来都市のヴィジョンの実現とも言える大阪万博を開催しました。本シンポジウムでは、大阪が戦後の混乱から復興し、ヴァイタリティに富んでいた時代、すなわち1950年代から60年代に、芸術ではどのような実験的試みが成されていたのか、その全体像を明らかにしようとするものです。第1部では、特に美術のアヴァンギャルドで重要な位置を占めた具体美術協会(具体、1954—1972年)の拠点「グタイピナコテカ」に焦点をしばって、当時その活動に直接関わった作家、批評家の証言をもとに、「グタイピナコテカ」が美術の分野で果たした役割を再検討します。第2部では、美術のほかに、デザイン、舞台、音楽各分野での前衛的活動を、それぞれの専門家による報告を通して振り返り、大阪のアヴァンギャルド芸術とは何であったのかを討議します。それは、大きく変貌する現代大阪にあつて、文化芸術の将来像を考える上でもきわめて有効にちがひありません。

問い合わせ先

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 豊中市待兼山町 1-13
tel. 06-6850-6715(平日 9:00—17:00)
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



シンポジウム会場・交通案内

大阪大学中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

- ◎京阪中之島線・中之島駅(6番出口)より徒歩約5分
- ◎京阪中之島線・渡辺橋駅(2・3番出口)より徒歩約5分
- ◎阪神電車・福島駅より徒歩約9分
- ◎JR東西線・新福島駅より徒歩約9分
- ◎JR大阪環状線・福島駅より徒歩約12分
- ◎地下鉄四つ橋線・肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分



高橋 亨 Takahashi Toru

1927年神戸市生まれ。美術評論家、大阪芸術大学名誉教授。東京大学文学部を卒業後、1952年に産経新聞大阪本社に入り、文化部記者として主に展覧会評など美術関係を担当して11年後に退社。具体美術協会の活動は結成直後から実見し、数多くの批評を発表。美術評論活動を続けながら1971年より26年間、大阪芸術大学教授を務める。兼務として大阪府民ギャラリー館長(1976-79)、大阪府立現代美術センター館長(1979-87)。大阪府民ギャラリーでは、具体解散後初の本格的な回顧展『具体美術の18年』(1976)開催と、詳細な記録集『具体美術の18年』の発行に尽力。その他、徳島県文化の森建設顧問として徳島県立近代美術館設立に参画し同館館長(1990-91)、滋賀県立近代美術館館長(2003-06)を歴任。

向井修二 Mukai Shuji

1940年神戸市生まれ。イメージプロデューサー、元具体美術協会会員。19歳から吉原治良に師事し第8回具体美術展より連続出品。1961年に記号の集積による絵画がミシェル・タビエに高く評価され、同年、部屋一面と自身を記号で覆った《記号の部屋》、1962年に舞台で、並んだ顔に記号を殴り書きする《顔と記号》を発表。翌年グタイピナコテカで初個展、以後国内外の大規模展に出品。1966年には梅田のジャズ喫茶「チェック」店内すべてを記号で埋め尽す。1969年に「創作行為は排泄行為」と見なし手元の全作品を焼却、無価値化し、吉原から学んだ「美術概念に当てはまらない」を元に起業。衣食住や医療分野での企画・プロデュースに没頭し、50歳で定年に至るまで六社余りを運営する。1993年に「ピラミッド相転移記号化計画」を立てるがCGの出現により中断。

加藤瑞穂 Kato Mizuho

1967年神戸市生まれ。大阪大学総合学術博物館招へい准教授。1993年より18年間、芦屋市立美術館学芸員。同館での具体関連企画展「菅野聖子展—詩と絵画と音楽と」(1997)、「草月とその時代 1945-1970」(1998)、「田中敦子—未知の美の探求 1954-2000」(2001)、「吉原通雄展」(2003)など。カナダの研究者との共同企画 *Electrifying Art: Atsuko Tanaka 1954-1968* (New York, 2004; Vancouver, 2005) で 2004-2005 AICA USA アワード「ニューヨーク市内で開かれた美術館での個展部門」第二席。第19回鹿島美術財団賞優秀者(2012)。最近の共著に『復刻版具体』別冊(藝華書院、2010)。*Atsuko Tanaka. The Art of Connecting* (国際交流基金主催、2011-12) コ・キュレーター。

熊田 司 Kumada Tsukasa

1949年神戸市生まれ。和歌山県立近代美術館館長。1977年、関西学院大学大学院文学研究科(美学専攻)博士課程修了。財団法人香雪美術館、財団法人西宮市大谷記念美術館学芸員、ふくやま美術館学芸課長、大阪市立近代美術館建設準備室研究主幹を経て現職。この間、「生誕90年小出楢重展」(1977)、「日本近代銅版画展」(1982)、「生誕100年記念佐伯祐三展」(1998)、「生誕100年記念吉原治良展」(2005)などの展覧会を企画実施。編著書に『復刻版「卓上」』(京都書院、1990)、『小出楢重画集』(共著、同刊行委員会、2002)、『森琴石と歩く大阪』(共著、東方出版、2009)、『森琴石作品集』(共著、東方出版、2010)など。専門は近代美術史。とりわけ日本近代絵画、版画などを主な研究テーマとしている。

竹内幸絵 Takeuchi Yukie

1963年大阪府生まれ。サントリーホールディングス株式会社勤務、大阪市立大学文学部、関西学院大学社会学部非常勤講師。博士(学術)。専門は歴史社会学、広告史、デザイン史。サントリーミュージアム(天保山)学芸員時代に20世紀初頭の興隆期欧州ポスターを調査。その後、日本の同時代の広告業界人らがそれらに触発された社会史を研究。著書に『近代広告の誕生—ポスターがニューメディアだった頃』(青土社、2011)、共著に『幻の東京オリンピックとその時代』(青弓社、2009)。第17回鹿島美術財団賞優秀者(2010)、第9回木村重信民族芸術学会賞(2012)。最近の研究は、GHQ押収雑誌資料による占領期の広告研究、テレビ黎明期のCMデータベース構築と表現研究、広告代理店「萬年社」と大阪の広告史。

永田 靖 Nagata Yasushi

1957年三重県生まれ。大阪大学大学院文学研究科長。専門は近代演劇史、演劇理論。学生時代に、20世紀前衛演劇の極北の一つオディン劇場の日本ツアーに通訳として随行、ヨーロッパ演劇とアジア演劇の接触融合の無限の可能性に触発される。日本演劇学会事務局長。国際演劇学会(IFTR)理事。IFTR Asian Theatre WG主宰者。アジア諸都市で研究集会を開催し、アジアにおける共同研究とそのネットワーク構築を推進中。最近の共著に *Theatre and Democracy* (Rawat, 2008)、*The Local meets the Global in Performance* (Cambridge, 2010)、*Re-writing Chekhov: the Text and its Mutations* (Routledge, 2012) など。

上野正章 Ueno Masaaki

1966年滋賀県生まれ。大阪大学大学院文学研究科招へい研究員、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。専門は音楽学、音楽史(近現代)。日本におけるジョン・ケージの受容、近代日本の地方都市における西洋音楽の受容、近代日本における西洋音楽の独学の研究に取り組んでいる。日本サウンドスケープ協会理事。共編著に『歌と語りの言葉とふし』(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、2012)。論文に「大正期の日本における通信教育による西洋音楽の普及について—大日本家庭音楽会の活動を中心に」(『音楽学』、2011) など。

橋爪節也 Hashizume Setsuya

1958年大阪市生まれ。大阪大学総合学術博物館館長、同大学院文学研究科教授兼任。東京芸術大学美術学部助手、大阪市立近代美術館建設準備室を経て現職。専門は日本東洋美術史。「木村兼葎堂—なにわの巨人」(2003)、「没後80年記念 佐伯祐三展」(2008)などの展覧会に携わる。編著書に『モダン心斎橋コレクション—メトロポリスの時代と記憶』(国書刊行会、2005)、『大大阪イメージ—増殖するマンモス/モダン都市の幻像』(創元社、2007)、『映画「大大阪観光」の世界—昭和12年のモダン都市』(大阪大学出版会、2009) など。